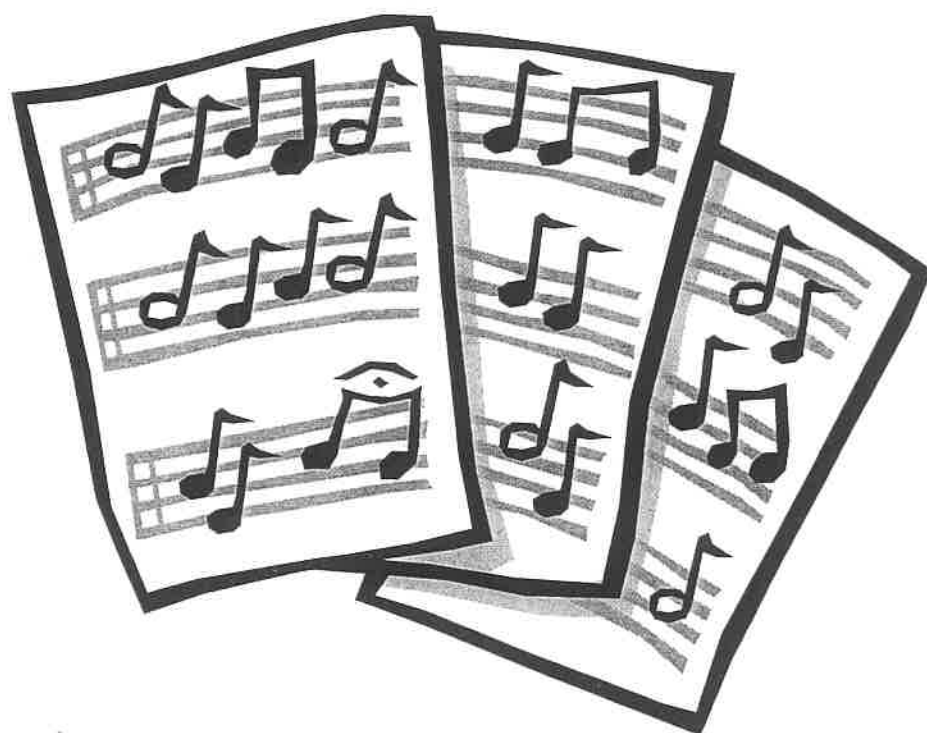


# 加藤繁雄ギター合奏会



1999年12月5日(日) PM2:00開演(開場; PM1:30)

大田区民プラザ(小ホール)

入場料; 2,000円(小学生; 1,000円)

主催; シグマギタースクール TEL03-3761-6719

後援; 日本ギター合奏連盟

## ごあいさつ

「ギターは難しい…何とかやさしくならないものか…」そんな単純な発想から生まれたのが「新8弦ギター」です。ギターの難しさは、ほとんどが左手の困難さにあるといってもいいかもしれません。特に私のように手の小さい人間にとっては、左手の拡張が困難だったり、相当な疲労感を覚える作品も少なくありません。それならいっそ高音弦を増やしてみてもどうか、バランス上低音弦を増やしてみてもどうか、という単純な考えに至り新8弦ギターが誕生しました。いざ練習に入りますと、思いがけない良いことがいっぱい出てきました。とりあえず6弦の普通の作品をそのままのポジションで演奏してみたところ、倍音の関係で豊かなふくらみを持つ響きになって蘇ってきます。そして、今までのギター作品を8弦用の新たなポジションで演奏してみますと、予想通り左手が大変楽になっています。更に、作曲家が6弦のために無理をしてオクターブ変更している低音の動きなども見えてきました。バッハなどの作品は元々がバスの動きを重要視していますから、原曲に忠実な音を出すことも可能です。更に、ギターアンサンブルの指導上も、すべての音域をカバーしていることでとてもやりやすくなりました。6弦作品を8弦で演奏するデメリットも勿論ありますが（ラスゲアード等）、今後の研究により大部分はメリットのほうが多いように思われます。私はこの新8弦ギターを、密かに「21世紀のギター」と思っています。是非ごゆっくりお楽しみください。

最後になりましたが、本日のコンサートの後援をいただきました日本ギター合奏連盟はじめ、役員関係者、楽器製作にご協力いただきました（株）ファナ、ジーアンドエム各社にも御礼申し上げます。

1999年12月5日(日)

加藤繁雄

「新8弦ギター」…通常が多弦ギターは、①弦から⑥弦を普通の6弦ギターの調律にし、⑦弦から低音を増やす方法で行っているのが一般的です。私の考えた8弦ギターは高音を①弦より完全4度高い「ラ・A4」とし、低音を⑥弦より完全4度低い「シ・B1」にしていますので、音域がかなり自由になっています。

1997年、オーストラリアの名製作家、サイモン・マーティ氏に作っていただいた楽器で、世界最高の「新8弦ギター」と思っています。

# PROGRAM

1. F. タレガ(1852 - 1909)小品集メドレー
  - ラグリマ
  - アデリータ
  - マリーア
  
2. A. バリオス(1885 - 1944)
  - 悲しみのショーロ
  
3. H. ヴィラ＝ロボス(1887 - 1959)
  - 前奏曲第1番
  - ショーロス第1番
  
4. F. ソル (1778 - 1839)
  - ロシアの思い出 Op. 63 (賛助出演：伏見晃司)

休 憩

5. J. S. バッハ (1685 - 1750)
  - プレリュード・フーガ・アレグロ BWV998
  
6. I. アルベニス (1860 - 1909)
  - アストゥーリアス
  
7. F. ソル (1778 - 1839)
  - 「マルボローは戦場に行く」の主題による序奏と変奏曲 Op. 28
  
8. 日本古謡～加藤繁雄(1957 - )
  - 横尾編に基づく8弦ギターのための「さくら」大変奏曲

ご来場誠にありがとうございました。お手数とは思いますが、アンケートのご記入をいただければ幸いです。

★ 加藤繁雄のファーストアルバム

「おいらはキャベツ作りの子」～佳奈永に捧げる」

MTCB-0008(シグマギタースクール)

おいらはキャベツ作りの子

加藤繁雄  
ギターアルバム  
～佳奈永に捧げる～



【収録曲】

- 《おいらはキャベツ作りの子》の主題による変奏曲0p. 49 (M. ジュリアーニ)
- 大聖堂 (A. バリオス)
- 4つのブラジル民謡組曲 (H. ビラ＝ロボス)
- アルハンブラ宮殿の思い出 (F. ターレガ)
- 南のソナチネ (M. M. ポンセ)
- コユンババ0p. 19 (C. ドメニコーニ)

お求めは、便利な郵便振替をご利用下さい。(用紙は全国の郵便局にあります。)

口座番号00110-5-665078 シグマギタースクール

単価¥2,800-(CDの送料はサービス!)